

12月の行事予定



- 4日(月) たいこクラブ(小学生)おひろめ
- 5日(火) 豊田小交流会
- 11日(月) 瀬戸高校生食育活動
- 13日(水) 園公開(たんぼぼ・つくしグループ)
- 15日(金) とらまる人形劇公演
- 19日(火) 避難訓練・お茶会(そら組)
- 22日(金) 誕生会・クリスマス会
- 29日(金)～31日(日) 年末休園

1月の行事予定



- 1日(月)～3日(水) 年始休園
- 10日(水) もちつき
- 23日(火) 園公開
- 26日(金) 避難訓練
- ※行事は変更する場合があります。ご了承ください。

フリー職員の山崎祐美が、はなゆき組の担任になります。よろしくお願いします。

いつも2人の作る給食で、こどもも職員も笑顔になります。

職員紹介&いいことさがし

にった ふゆみ
新田 富由美(給食室)

- ① お菓子作り(特にプリン)
- ② 韓流ドラマを見る・100マス計算
- ③ 「今日のごはん何?」「おいしかったよ」の声が聴けて嬉しいです。

- ① 特技
- ② 趣味
- ③ ひとこと

↓お互いのいいところを伝え合っています!

みやもと むつこ
宮本 睦子(給食室)

- ① 飼い犬の気持ちは目を見て分かります
- ② 新しい調理器具探し
- ③ こどものいろいろな話を聞きくのが、今の楽しみです。

新田さんはとても人柄が、温かい方です。そして、仕事が早いです。後ろを向いている間に、片付いています。いつも、見習うことばかりです。(宮本より)

宮本さんは几帳面で、準備万端で調理も手早く、阿吽の呼吸で私を助けてくれます。気さくでいろいろな話(食べ物・テレビ・家庭のこと)を笑顔で聞いてくれます。(新田より)

ほし組お泊り保育



そら組キャンプが終わってから、「次は、ほし組のお泊り保育」とワクワクしていたこどもたち。ついにその日がやってきました。

今年は地域の方との触れ合いをしたいと思い、郵便局やAコープに買い物に行きました。話かけることに緊張していた様子がありましたが、一度経験すると「〇〇ください」と自分の言葉で伝えることに少し自信がつかしました。買った材料で自分たちでカレー作り、たくさん食べました。寝る時にはちょっと寂しくなることもありましたが、保護者のお迎えが来る頃には「楽しかった」「またしたい」という声がこどもたちから聞こえてきました。

お泊まり保育を経験したことで、少しこどもたちの心が大きくなったように感じました。

わまびこだより

社会福祉法人岡山こども協会 とよた保育園

赤磐市松木549 TEL 995-0244

令和5年12月1日発行

305号



食べてみようかな

はなゆき組の年齢になってくると、少しずつ味の好みが出始め、前はあんなによく食べていたのに…と思う食材を急に食べなくなることがあります。無理強いほしくないものの栄養面を考え、少しずつでも食べてほしいという思いもあり、保育者が最初に食べられるくらいの盛り付け量にしてみたり、スプーンで口に運んでみたり、あの手この手を試しています。

おやつにピーマンの肉詰めが出た日のことです。野菜が苦手な子はピーマンをよけて食べていました。Aさんはピーマンと肉を分け、肉だけ食べていました。ですが、隣に座っていたBさんが「見てて」と言ってピーマンを食べ始めました。その姿に保育者が拍手をしながら「すごいね」「ピーマン食べられたね」と言うと、それを見ていたAさんがスプーンを自分で持ち、保育者と目を合わせながらピーマンを食べました。Bさんと同じように拍手をしながら「すごいね」と言うとAさんも嬉しそうにピーマンを口に入れていました。2口目も保育者と顔を合わせながら食べることができました。次の日も同じようにしてみたのですが、スプーンがお皿に戻って来てしまいました。いろいろな方法で関わる中で、少しずつ野菜を自分から口に運べるようになっていっていると感じます。

普段は野菜を嫌がっていたAさんが楽しそうに食べることはできたのは、友だちの姿や、保育者とBさんが一緒に喜びやりとりを見て、「自分も食べてみよう」という気持ちを持ったからだと感じます。これからもこどもたちが自分で食べてみようと思えるよう工夫し、食べるのが嬉しいな楽しいなと感じる雰囲気作りを大切にしたいと思います。

西村 蓮





こどもに育つ力を



つき・ほし組

こども同士で「鬼ごっこをしよう」と友だちと誘って遊ぶことが増えてきました。初めはそら組だけで始まることも多いのですが、何をやるのかは友だちとよく相談をしている姿が見られます。そら組さんが、楽しそうに遊んでいる姿をみて、つきほし組さんも勇気を出して「一緒にしたい」「入れて」と声をかけています。「いいよ」「鬼役がしたい？逃げる方がしたい？」とその子の気持ちをじっくりと聴いています。お互いに納得し、役が決まると鬼ごっこもスタート。

異年齢で関わって遊ぶ中で、自然とこども同士でも話し合いや相手の思いに気付くことができるようになってきているのだと思いました。

どの子も健やかに育ってほしいと誰もが望んでいます。そして、こどもは将来自分一人で生きていかななくてはならないのだから、そのために必要な力というものがあるのならば、ぜひ身につけておいてほしい。そう思います。

人と人との関わりあいのなかでどの子も育っていきます。相手が何を考えているのか、それを思いやる気持ち。自分と同じように相手も大切だと感じる心。何よりも最優先すべきことは、この、人と人との関わりを大切にしていける心を育てていくことだと思います。



そら組



先日、熊山公民館で行われた公民館まつりで太鼓を披露してきました。初めての大きな舞台での演奏ということもあり、緊張したようです。公民館まつりの話を投げかけたときに、「たくさんの方が見るのは恥ずかしい」と話す子もいました。

取り組みの中でも友だちと打つタイミングや音を揃えようとしながら頑張っていました。友だちと協力して何かに取り組み頑張る姿をみると、「そら組ってすごいな」と感心します。



にじ組

友だちとのやり取りの中で言葉で伝えることができるようになってきたこどもたち。玩具を「貸して」と言ったのに貸してもらえず涙が出るAさん。そんなAさんを見たBさんが「じゃあこれ貸してあげるからまた後で貸してね」と言い、自分の持っていた玩具を貸してあげていました。Aさんも自分が譲ってもらったことで、玩具を使いたがっていたCさんに「どうぞ」と同じように譲り合って使うことが出来ました。

中にはまだ言葉で自分の気持ちを伝えることが難しいこどももいます。しかし、こどもたちは友だちのやり取りを見て、相手を思いやる気持ちを学んでいくのだなと思いました。

はなゆき組

散歩に出掛けると、友だちに「行こう」「手を繋ごう」と声を掛けたり、砂場で遊んでいる時には玩具を「貸して」「どうぞ」など相手を思いやる優しい一言が聞こえてきます。

何気ない日常の一言ですが“自分も言ってみよう”という姿に繋がります。気持ちを伝え合うことはまだ難しいことですが、だからこそ大人がこどもの気持ちを汲み取り、代弁しことばで伝えたいと思います。

